MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

## 為替週間展望＝ドル円は底堅い展開か

［１月１２日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　1月５日～１月９日

| | 始　値 | 高　値 | 安　値 | 終　値 | 前週比 |
|---|---|---|---|---|---|
| ドル・円 | 156.79 | 157.57( 9) | 156.12( 5) | 157.54 | +0.70 |
| ユーロ・ドル | 1.1724 | 1.1743( 6) | 1.1640( 9) | 1.1641 | -0.0078 |

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

| | 終　値 | 前週末比 | | 終　値 | 前週末比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 日経平均株価 | 51,939.89 | +1600.41 | 日本10年債利回り | 2.098 | +0.032 |
| ダウ平均株価 | 49,266.11 | +883.72 | 米10年債利回り | 4.167 | -0.023 |

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

<来週の主要経済統計等>

１３日　日本１１月経常収支
　　米１２月消費者物価指数
　　米１０月新築住宅販売件数
１４日　中国１２月貿易収支
　　米１１月生産者物価指数、米１１月小売売上高
　　米第３四半期経常収支
　　米１２月中古住宅販売件数
１５日　英１１月鉱工業生産指数、英１１月製造業生産指数、英１１月貿易収支
　　ユーロ圏１１月鉱工業生産指数、ユーロ圏１１月貿易収支
　　ユーロ圏１１月貿易収支
　　カナダ１１月製造業出荷、カナダ１１月卸売売上高
　　米新規失業保険申請件数、米１月フィラデルフィア連銀景況指数
　　米１月ＮＹ連銀製造業景気指数、米１１月輸入価格指数
　　米１１月対米証券投資
１６日　片山財務相　日本記者クラブで会見
　　独１２月消費者物価指数確報値
　　米１２月鉱工業生産・設備稼働率

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】米経済指標の事前予想はまちまちの動きながら、大きく悪化するようなものはない。総じて堅調さを示すか、一部でわずかな鈍化を示す程度の結果に落ち着くとみられる。こうした中、米経済指標に左右されながらもドル円は堅調な推移を見せよう。ただ、大きく上昇する局面では介入警戒感から上値を抑えられる可能性があるとした。

【ドル円は１５６～１５７円台での振幅】

　１月５日以降のドル円相場は、１５６～１５７円台を中心とした高値圏でのもみ合いを続けている。５日に大発会を迎えた東京株式市場で日経平均が大幅高となり、１５００円近い上昇となったことで円売りに傾き、ドル円は１５７．３０近辺まで上昇した。その後、１５６円台に軟化する動きも見られたものの、レンジ内での推移を続けている。

　この日発表の米１２月ＩＳＭ製造業景況指数が４７．９となり、事前予想の４８．４を下回った。１０か月連続で好不況の境目となる５０を下回り、１年２か月ぶりの低水準となった。これを受けて、ドル円は１５６．１０台まで下落した。

　ただ、この後はレンジ相場で推移した。９日の米１２月雇用統計を控えていることで、１５６円台前半から１５７円手前での推移が続いた。

７日に発表された米経済指標は強弱まちまちとなった。米１２月米ＡＤＰ雇用者数は前月比４．１万人増となり、事前予想の４．８万人を下回った。米１１月雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）求人件数は７１４．６万人と、事前予想の７６７．９万人や前回の７４４．９万人（改定値）を下回った。労働市場は減速傾向となった。一方で米１２月米ＩＳＭ非製造業景況指数は５４．４となり、事前予想の５２．３や前回の５２．６を上回った。

８日のＮＹ市場では、米１０月貿易収支で貿易赤字が予想を大きく下回ったことや、米新規失業保険申請件数も予想を下回った。こうした点が米国経済の堅調さを示したとみなされドル買いにつながり、ドル円は一時１５７円台に乗せた。９日の東京市場でもドル円は１５７円近辺で堅調な推移を見せている。

【米消費者物価指数や米小売売上高に注目】

１月１２日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、１３日に日本１１月経常収支、米１２月消費者物価指数、米１０月新築住宅販売件数、１４日に米１１月生産者物価指数、米１１月小売売上高、米第３四半期経常収支、米１２月中古住宅販売件数、１５日に米新規失業保険申請件数、米１月フィラデルフィア連銀景況指数米１月ＮＹ連銀製造業景気指数、米１１月輸入価格指数、米１１月対米証券投資、１６日に米１２月鉱工業生産・設備稼働率などがある。

１２日の米経済指標としては、１３日の米１２月消費者物価指数、１４日の米１１月小売売上高などが特に注目される。事前予想は米消費者物価指数が前月比＋０．３％（前回１１月分は発表なし）、前年比＋２．７％（前回は＋２．７％）。コア前月比＋０．３％（前回１１月分は発表なし）、コア前年比＋２．７％（前回は＋２．６％）となっている。市場予想を上回るようだとドル買いに傾きやすく、下回るとドル売りに振れることとなりそうだ。市場予想通りなら市場への影響は限定的となりそうだ。

米小売売上高の市場予想は、前月比＋０．４％と前回（変わらず）から伸びが加速する見通し。コア前月比は＋０．３％と前回（＋０．４％）から伸びが減速する見通し。こちらも市場予想から上振れするとドル買いに、下振れするとドル売りに振れることとなろう。

米経済指標は極端な悪化を警戒するようなものはない。堅調な結果を示すものが多いとみられる。こうした中、ドル円は底堅い展開が見込まれる。ただ、１５８円に接近、あるいはそこを超えてくるようだと、為替介入への警戒感から上値を抑えられることとなりそうだ。目先の予想レンジは１５５．００～１５８．５０円となる。

※米政府機関再開に伴い米経済指標の発表日が変更・追加される可能性がある。

【ユーロドルは軟調な推移が継続か】

ユーロドルはドルの堅調さを背景に軟調な推移が続いている。米雇用統計の発表を９日に控える中、米経済指標の結果はまちまちで、米長期金利も方向感が出なかった。５日に１．１７ドルを割り込むと、その後は上値の重い展開が続いた。

１２日の週はやはり米消費者物価指数、米小売売上高の影響が注目される。堅調な結果を見せるようだと、ドル買いの動きからユーロドルは軟調な動きが継続するとみられる。５日移動平均線に上値を抑えられており、下落基調が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．１５００～１．１７５０ドルとなる。

ポンドドルは昨年末から上げ一服感から上値の重い展開に転じている。５日は弱い米ＩＳＭ製造業景況指数を受けてドル売りとなり、１．３５４０台まで上昇した。翌６日にはさらに１．３５６８近辺まで上昇したものの、１．３５近辺まで売りに押された。その後は１．３４台前半まで下している。２１日移動平均線を割り込んだこともあり、下落基調で推移するとみられる。目先の予想レンジは１．３２５０～１．３５００ドルとなる。

今後の日米以外の経済指標としては、１４日に中国１２月貿易収支、１５日に英１１月鉱工業生産指数、英１１月製造業生産指数、英１１月貿易収支、ユーロ圏１１月鉱工

業生産指数、ユーロ圏１１月貿易収支、カナダ１１月製造業出荷、カナダ１１月卸売売上高、１６日に独１２月消費者物価指数確報値などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。